

淳風集

小林貴子



析の実に次々打たる懺悔室  
星空ゆ 豎琴の音や花野原  
軽井沢かりがね寒き日なりけり  
透明な詩篇に月の光降り  
いつせいに首振る毛虫国滅ぶ  
望遠の筒も露けきものうち  
草の実や馬の額に菱の紋  
金風や蹄鳴らして馬逸り

金輪際日の射さぬ場所猪垣は  
秋風や切株象の足の如  
つくばねの実とて突くにはいとけなき  
猩々袴冬に備へて株養ひ

(飯田句会吟行六句)

俳句俎々

小林貴子

現代俳句協会が出版した『昭和俳句作品年表 戦前・戦中篇』は只今戦後篇（昭和二十一年〜四十五年の作品掲載）を編集集中である。この本はその性質上、俳句一句一句の作句年を調べるのが必須作業となる。個人句集があって、一年毎の編年順になっていけば何の問題もない。また、俳人協会では出されている「自註シリーズ」は作句年を付しているの、これがあれば助かる。句集があっても章立てが何年か纏められていけばもうアウトだ。そうした場合は作者が当時所属していた結社誌や同人誌に当って一句一句調べることとなる。

句集や俳句雑誌を調査する際、現在最も充実しているのは

俳人協会の俳句文学館で、東京新宿百人町にある。会員以外でも百元払えば利用出来る。図書は閉架で、請求すると五冊ずつ出してきて、その場で読むことが出来る。貸し出しはなし。堤事務局長は「糸瓜の会」で輪読の担当をするためにさえ、ここを訪れて鋭意調査に余念がない。  
一方私は「馬酔木」を片っ端から探し、有働亨（へんみん）の声の円盤廻り出すの一句を昭和三十八年十一月号に見出したりした日には、そのページに頬ずりしたいほど嬉しい気持ちになる。一方、どうもこれは見逃したかという句もあり、百人町の地面にめり込む気持にもなる。この苦闘は今年中に終りを迎えるのか、微妙なところである。